

平成25年10月11日

## 2013インターバイク・ラスベガス展 出展参加報告

一般財団法人自転車産業振興協会  
本部 事業部  
技術研究所 研究開発部

本年も米国最大の自転車展示会であるインターバイク展が去る9月18日から20日にかけて米国ラスベガスで開催された。本年から開催展示場がマンダレイベイ・コンベンションセンターという展示場に移り展示場全体の小間の配置が全く変わったが、新しい会場の印象は悪くなかった。展示会事務局によると、全体の展示面積は過去最高となり来場小売店数も前年比8%増となったものの、来場者総数は7%減となったほか、今年から設けられた最終日の一般消費者向け開放措置に関しては来場者数が750名にとどまった、という事で一部に弱含みの結果も見られた。しかし昨年の来場者総数が一昨年を大きく上回っていた事もあり、本年もにぎやかで活気のある展示会であるという事に変わりはない。特に初日・2日目は非常に多くの人々が来場し歩くのが困難な箇所も多かった。

当協会では本年もこの展示会にまとまった小間を確保し共同出展企業を募集のうえ、共同出展を実施した。最終的に10社の共同出展企業にお集まりいただき事ができ、微力ながらこれら各社の対米輸出促進支援を行った。本年から展示場が変わるため当協会共同ブースがどこに割り当てられるか当初不安もあったが、非常に良い位置が割り当てられ、この懸念も解消された。今後更に共同出展を拡大し、各共同出展企業の小間装飾も充実させていきたいと考えているので、ご関心のある向きは是非遠慮なくお問合せいただきたい。

### 展示会の概要

展示会の名称：インターバイク国際自転車展 (interbike INTERNATIONAL BICYCLE EXPO)

会 期：平成25年9月18日～20日(アウトドアデモと呼ばれる屋外新モデル試乗会が9月16日・17日に実施された)

会 場：米国ネバダ州ラスベガス市 マンダレイベイ・コンベンションセンター

主催者名：エメラルド・エキスポジションズ

入場者数：昨年比7%減(昨年は25,536人)、来場小売店数は8%(350店)増、(昨年は4,160店)  
一般消費者来場者数750名

展示面積：320,000平方フィート(約29,600㎡) 昨年比1.5%増で過去最高

アウトドアデモ出展ブランド数：220 ブランドで昨年比 10%増

尚この展示会はビジネスに特化した展示会であり、最終日金曜日午前 11 時以降に今年から設定された一般消費者向け時間帯を除き一般ユーザーの入場は認められていない。またメディア登録をした人以外は会場内での写真の撮影も禁止されているほか、本年から展示会規則が変わり、出展者は許可を得た場合を除き他の出展企業の小間に立ち入る事も認められなくなった。

## 1. 展示会の模様

9月18日～20日の3日間、マンダレイベイ・コンベンションセンター南館の1階でインターバイク展が開催されたほか、地下のフロアで、ヘルス・フィットネス機器の展示会も同時開催された。

来場者は会場の入り口で受付をし、中央の通路を通り会場内へ入場する。1階の会場は扇形のような形状をしており、A～Dのゾーンに分けられ、ゾーンBにトライアスロン、ゾーンCにマウンテンバイク及びBMX、ゾーンDにアーバン、電動自転車の専用展示コーナーが配置され、これらのほか屋外に電動自転車などの試乗ができるコースが設置されていた。



展示会場



会場入口

展示会への入場は、商談会であることから1日目、2日目はバイヤーに限定し、3日目の11時以降に一般消費者の入場が許可されたが、前述の通りこの一般消費者入場の取り扱いは本年初めての試みである。1日目、2日目は例年通り多くの来場者で賑わった。しかし展示会事務局が発表したとおり3日目11時から設定された一般消費者の来場者数は多いとは言えず、特に3日目の午後は、バイヤーの数も減った。

会場が移ったことへの対策とも思われるが、会場内には小間の位置を現わす数字の番地が大きく表示されていたものの、毎年参加している人からは会場内の方向が分かりにくいという声も聞かれた。尚、展示会規則には写真撮影や他社小間への立ち入りを含め厳しい内容が定められているが、それはそれとして、会場全体には米国的なおおらかな雰囲気を感じられた。

## (1) 完成車の展示

完成車は、ロードレーサー、マウンテンバイクが中心で、シクロクロスバイクなどの車種も展示されていた。

ロードレーサーは、カーボンフレームが主流で、数10万円程度のモデルからフルカーボンの最上級モデルでは100万円を超えられるものまで展示されていた。フレームの色は、黒を中心とした落ち着いた色が多かった。

マウンテンバイクもカーボンフレームが主流で、普及モデルにはアルミフレームのものも展示されていた。タイヤサイズは、26、27.5、29があり、特に27.5をPRしているメーカーもあった。

電動自転車は、専用展示コーナーで展示されていた。電動自転車の形状は、キャリアにバッテリーを取り付けるタイプ、フレームにバッテリーを取付けるタイプ、小型バイクに似たタイプなどいろいろな種類があった。大手完成車メーカーでは、欧州メーカーの2社が電動自転車を展示していたほか、屋外に試乗コースを設け試乗に供しているところもあった。しかし、会場全体の割合からするとかなり少なく、米国ではまだ電動自転車の人気がないように感じられた。

また、マウンテンバイク、BMX及びトライアスロン車にも専用展示コーナーがあり、それぞれの自転車及び関連ウェア、部品・付属品などが展示されており、一定の人気があることが窺えた。

アーバン車は、日本のシティ車の上級モデルと言ってよいもので、街乗り用のおしゃれな自転車である。この他、幼児3人まで乗せることができる自転車、キャリアにバッグを取り付けたツーリング車やベルト駆動のタンデム車などが目に付いた。

ツール・ド・フランスで10回の優勝を誇るイタリアのメーカーは、ブースが鮮やかな黄色でよく目立ち、来場者の人気を集めていた。このメーカーでは、有名選手のサイン会を行うなどして自社製品をPRしていた。

## (2) その他

部品の展示については、例年通り大手部品メーカーが出展しており、変速機、ブレーキ、ホイールなどの部品からシューズ、ウェア、バッグなどの小物類まで展示されていた。ホイールなどの部品類についてもカーボン素材を使った製品が多く展示されていた。この他、サイクルコンピューター、トレーニング機器などの展示もあった。また自動車用キャリアメーカーで、キャリア以外に自転車の移動用のケース、バッグなどの展示を行っているところもあった。

共同出展についてであるが、日本の他、イタリア、台湾、中国が共同出展を行っていた。イタリア共同出展は、政府のバックアップもあるようで、パビリオン全体が赤と白の配色で上手くまとめられており、例年通り大変立派な装飾が施されていた。出展企業は35社である。ロサンゼルスに由来からイタリア貿易振興会の専従職員が配置されており人的な厚みも備えられている。このイタリアパビリオンは本年から当協会共同小間の目の前となった。また台湾もパビリオン全体が明るく配色されており、出展企業は37社であった。中国のパビリオンは会場の奥に位置し出展企業は51社であった。

## 2. アウトドアデモ

展示会の開催前の9月16日、17日にアウトドアデモが実施された。アウトドアデモは、完成車メーカーによる新モデル試乗会である。アウトドアデモの会場は従来と同じで、展示会場から約30分のボールダーシティ、ブートレグキャニオンで開催された。この会場へは展示会場から出ているシャトルバスでの移動となる。参加者の多くは、試乗するのに相応しいウェアを着て、ヘルメットなどを持参していた。

会場内は、完成車メーカー、部品メーカー合せて150社以上のブースが立ち並び、大手完成車メーカーのブースでは、ロードレーサー、マウンテンバイクなどの車種が試乗に供されていた。また、タイヤの幅が4インチのファットバイク、BMX、電動自転車などを試乗に供するメーカーもあった他、アクセサリ類の供用を行っている企業も見受けられた。会場の上空にはメーカー名をPRするセスナ機も飛んでいた。



デモ会場入口



試乗する参加者



試乗コース



運搬用トラック

参加者は、希望するブースで自転車を借り、メカニックが参加者の体形に合わせて自転車の各部を調整した後、試乗を行う。試乗コースは、マウンテンバイク用のダウンヒルコース、クロスカンントリーコース、ロードレーサーなどの周回コース、電動自転車の試乗コース、BMX用のトラックがあり、車種に応じたコースで試乗することができる。ダウンヒルコースは、マウンテンバイクを

運搬用トラックで山の頂上まで運び、そこから急な坂道を降りてくるコースである。

### 3. 来年のインターバイク展について

今年も展示会事務局から、来年のスケジュールについて早々に発表された。2014年は本年と同じラスベガスのマンダレイベイ・コンベンションセンターで開催され、会期はおよそ一週間早まり9月10日～12日の予定である。またアウトドアデモはこれに先立つ9月8日、9日に開催されることになっている。

### 4. 当協会の共同出展について

当協会は、本年は昨年より2小間多い14小間を確保し共同出展を行った。当協会共同小間は、会場のほぼ中央、イタリアのパビリオンの隣の良いエリアに割り当てられた。本年の共同出展企業は昨年より1社多い10社となり、共同小間全体で日本の出展をアピールするようブースの装飾を行い、共同出展各社の商談活動に繋げた。今回の共同出展企業は、株式会社ミヤタサイクル、株式会社ヨシガイ、株式会社本所工研、株式会社インタージェット、株式会社加島サドル製作所、株式会社三ヶ島製作所、株式会社日東、株式会社エヌエスケーエコーマーク、株式会社スギノエンジニアリング、株式会社タンゲセイキの10社である。

#### 2013インターバイク・ラスベガス展当協会共同出展企業一覧

出展社名 (英文名)	住 所	電話 F A X	主な出品物
株式会社ミヤタサイクル MIYATA CYCLE	〒105-0003 東京都港区西新橋 3-25-31	03-3436-2030 03-3436-2088	完成車
株式会社 ヨシガイ DIA-COMPE JAPAN	〒571-0008 大阪府門真市東江端町 7-25	072-884-8020 072-884-8030	ブレーキ、ヘッドセット等
株式会社 本所工研 HONJO KOKEN	〒130-0003 東京都墨田区横川 2-19-10	03-3625-2431 03-3625-2433	フェンダー
株式会社 インタージェット INTERJET	〒532-0004 大阪市淀川区西宮原 2-7-38	06-6393-3611 06-6393-3822	フレーム
株式会社 加島サドル製作所 KASHIMA SADDLE	〒580-0014 大阪府松原市岡 1-116	072-333-3594 072-333-1973	サドル
株式会社 三ヶ島製作所 MKS	〒359-1166 埼玉県所沢市糞谷 1738	04-2948-1261 04-2948-1265	ペダル
株式会社 日東 NITTO	〒334-0013 埼玉県川口市南鳩ヶ谷 3-23-7	048-286-7771 048-286-7770	ハンドル、シートポスト等

株式会社エヌエスケーエコーマーク NSK ECHOMARK	〒169-0051 東京都新宿区西早稲田 1-16-3	03-3207-4004 03-3207-3339	バイクウェア 用素材
株式会社 スギノエンジニアリング SUGINO	〒630-8144 奈良市東九条町 287-1	0742-62-5311 0742-62-5320	クランク、チェ ーンリング等
株式会社 タンゲセイキ TANGE SEIKI	〒590-0940 堺市堺区車之町西 1-1-26	072-224-9990 072-224-9991	ヘッドセット 等



株式会社ミヤタサイクル



株式会社ヨシガイ



株式会社本所工研



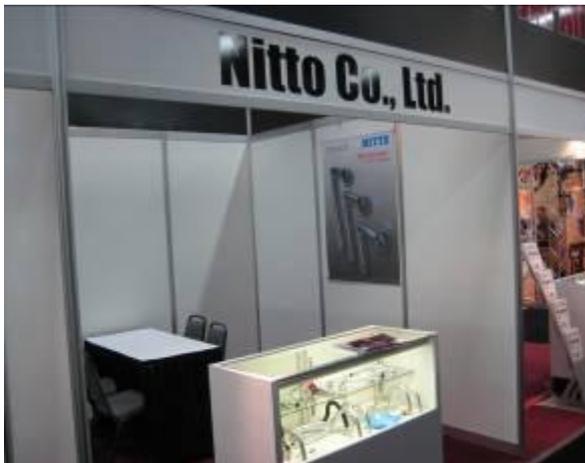
株式会社インタージェット



株式会社加島サドル製作所



株式会社三ヶ島製作所



株式会社日東



株式会社エヌエスケーエコーマーク



株式会社スギノエンジニアリング



株式会社タンゲセイキ

尚、当協会では2014年インターバイク展においても引き続き共同出展を実施する予定であり、当協会宛の共同出展申込を本年年末にかけて受け付ける事を計画している。米国でブランドを確立させる事により、そのブランドが世界に展開されていく事も考えられると思われる。共同出展にご関心の向きは是非遠慮なくお問い合わせいただきたい。

当協会本部事業部連絡先電話番号：03-5572-6410 11月1日以前

03-6409-6921 11月5日以降

当協会本部 HP <http://www.jbpi.or.jp/>

以 上